

# 第4回海外WEBセミナー

「ブルガリアー首都ソフィアから見えるヨーロッパの深層」

開催日時 7月2日(土) 16:30-18:30(レクチャー90分+質疑30分)

第4回は、ヨーロッパのブルガリアの首都・ソフィアから稲門建築会会員の山崎揚史さん（苗1988）に町そのものの歴史から紐解く、ヨーロッパの姿をご紹介します。

ソフィアはヨーロッパの中でも屈指の古さを誇る歴史的な都市で、ローマ時代にはセルディカと呼ばれ属州の首都とされていました。中世のブルガリア王国時代を経て15世紀にオスマン＝トルコの支配下に置かれ、19世紀、ロシアの支援によりブルガリア自治公国として独立するまではイスラム文化の影響を強く受けています。

地政学的にトルコ支配下のバルカン諸国、ハプスブルグ朝のオーストリア＝ハンガリー帝国、ロシア（のちのソヴィエト連邦）に絶えず影響を受けながら、独特の文化や多数の宗教・民族が重層する特異な発展を遂げてきたその歴史を通じて、日本ではあまり知られていない中央ヨーロッパ史とこの地域が建築史に果たした役割を紐解いていただきます。

また、現在山崎さんが取り組まれているソフィア公衆浴場の復活への試みにも触れていただき、ブルガリアのみならずヨーロッパ通史における温泉の役割についてご紹介いただく予定です。

# BULGARIA SOFIA 山崎揚史 (苗1988)



YAMAZAKI+IVANOVA architects CEO

- 1966年 東京生まれ
- 1988年 早稲田大学理工学部建築学科卒
- 1990年 早稲田大学理工学研究科修士
- 1990-2年 ソ連政府給費留学生

